

第44回長久手市地域公共交通会議結果について

視 点	現 状
① 市内概況	(1) 市の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・長久手市では将来高齢化の進展が見込まれ、移動困難者の増加も想定される。 ・Nーバスの運行に関する市の負担額が増加している。 ・Nーバスの藤が丘線、西部循環線は名鉄バスとルート、運行時間が一部重複している。
	(2) 各公共交通の現状 <ul style="list-style-type: none"> ・リニモ、Nーバスで利用者が増加。 ・名鉄バスの利用者は横ばい。
	(3) 環境の変化 <ul style="list-style-type: none"> ・長久手古戦場駅、愛知医科大学病院、公園西駅のバスターミナルの整備、大型商業施設の相次ぐ出店。 ・今後開業予定のジブリパークへの来訪者による自動車交通量の増加の懸念。
② 市民アンケート結果	(1) 移動ニーズの変化 <ul style="list-style-type: none"> ・市全体ではイオンへの移動ニーズが主にリニモ、Nーバスで増加している。 ・名古屋市を除く隣接市への移動ニーズは日進市、尾張旭市、瀬戸市、豊田市の順で多く、H25 調査時に比べ、買い物、レジャー・社交目的での移動が増加している。
	(2) 各公共交通の利用目的 <ul style="list-style-type: none"> ・リニモ、名鉄バスは、レジャー・社交、買い物、通勤、Nーバスは買い物、公共施設、通院・福祉サービスが多い。
	(3) 高齢化に伴う移動困難者の増加 <ul style="list-style-type: none"> ・最寄りのバス停までの徒歩移動に困難を感じる方の割合は高齢になるほど多くなる。 ・外出を控える理由は身体的な理由が多くなっている。
	(4) 各地域における移動ニーズ <ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとで「公共交通で行けるようになって欲しい施設や場所」のニーズは異なる。 ・「公共交通で行けるようになって欲しい施設や場所」は公共交通でつながっているが、所要時間や乗継待ち時間が長くなる場合がある。
③ 市民ワークショップ	(1) 名鉄バス <ul style="list-style-type: none"> ・運行に関する情報が少ない。
	(2) Nーバス <ul style="list-style-type: none"> ・乗り継ぎ拠点市役所のみでは不便 ・住宅や高齢者が多い地区を運行していない区間がある。 ・利用が多い施設とバス停が遠いところがある。 ・市役所でどの車両がどの路線の運行かが分かりにくい。 ・買い物や公共施設を利用する際に不便。
	(3) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・今後は交通弱者、運転免許返納者が多くなる。 ・一般的に公共交通の情報が少ない。

公共交通に関わる課題

課題1：地域ごとの移動ニーズに対応した公共交通ネットワークの確保

・市内の地区によって市内外の移動ニーズや公共交通の利用特性が異なるので、リニモ、名鉄バス、Nーバスの役割を明確にしながら、公共交通ネットワークを構築が課題である。

課題2：まちの変化と将来に対応した公共交通の展開と持続可能な公共交通の実現

・新規出店したイオンやイケアへの移動ニーズを踏まえながら、整備された長久手古戦場駅や愛知医科大学病院の交通結節点を活かし公共交通ネットワークを充実すること、並びに将来の高齢化の進展を見据えた公共交通の持続性の確保が課題である。

課題3：高齢者等の交通弱者に対応した公共交通サービスの提供

・高齢化の進展により、身体的な理由で最寄りのバス停まで移動できない方は、従来の公共交通だけではカバーできないため、移動困難者が自家用車での移動に頼らずに外出できるような、交通環境づくりが課題である。

課題4：交通量の増加を見据えた更なる公共交通への利用転換の推進と公共交通情報発信の強化

・「公共交通に対する市民意識の向上」の目標を達成し、市民意識は高まりつつあるものの、大型商業施設の相次ぐ出店とジブリパークの新規開業による更なる自動車交通の増加が見込まれるため、公共交通が移動の選択肢になりうるような情報提供や公共交通の利用を促す仕組みづくりが課題である。

将来像

みんながつながり笑顔があふれる公共交通

公共交通に関する取組の基本方針

基本方針1：各公共交通の連携

・リニモ、名鉄バス、Nーバス、タクシーの性質の異なる公共交通の役割分担を明確にしながら、各公共交通の連携・補完によって、移動利便性の高い公共交通体系を構築する。

基本方針2：まちの変化との連携への対応と持続性の確保

・大型商業施設の開業、交通結節点の整備など、まちの変化に対応するとともに、今後開業が予定されているジブリパークを視野に、まちの変化に応じて市内外の市内のみならず近隣市町と連携し、移動・交流を支える市内外の公共交通施策を展開し、それら公共交通体系が持続できるように、公共交通サービスの展開の仕組みを構築する。

基本方針3：多様な移動ニーズへの対応

・健常者や、高齢者や子育て世代、子ども、障がい者などの交通弱者の多様な人々の誰もが利用しやすく、利便性の高い公共交通サービスを提供する。

基本方針4：利用促進による維持・活性化

・過度に自動車交通に依存せず、使い分けることができるよう、公共交通の利用促進を子どもからお年寄りまで幅広い年代を対象に展開していくとともに、多様な主体の連携による公共交通の維持・活性化の仕組みを構築する。